

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第18号 平成21年3月号

啓蟄の候
もうあぐ始まる
虫たちのMarch



発行

MCS GROUP

有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2

TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467

URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>

E-Mail info@motomiya-mcs.jp

ITの力と経営力

先ごろ、経済産業省が主催する「中小企業IT経営力大賞2009」の受賞者が発表されました。

今回大賞を受賞した企業は、石川県の産業機械メーカー、京都のダイカスト部品製造業、大阪の金属ばね製造業の3社。経営戦略にITを融合させ、ビジネス価値を向上させている点が評価されました。

「中小企業IT経営力大賞」とは

経済産業省の資料によると、企業が生産性を向上させ、競争力を強化させるために、ITを活用し、経営力を向上させる取り組みを「IT経営」と名付け、以下のように定義しています。

(前略) ITを、新しいビジネスツールと捉え、従来のように、業務の効率化など、守りの分野のみに活用するのではなく、下請けからの脱却、多品種・少量・短納期への対応、業務の可視化による戦略的経営の推進など、攻めの分野にも活用し、経営力を高めていく取り組みを積極的に展開している企業が次第に増えています。このような企業の取り組みを「IT経営」と称しています。(後略)

つまり、IT機器や技術、情報を“武器”として活用することで、勤が頼りの経営から「見える経営」へシフトして、現状から一歩前へ出ましようというのが、経産省からのメッセージです。その取り組みを広めるために、この「大賞」が制定されました。

「IT経営実践認定企業」の選定

大賞のほかにも、業務全般にITが活用され、そこから得られたデータを、経営上の判断や企業内・企業間の活動に、最適な状態で活用していると認められる企業を、「IT経営実践認定企業」として、全国から130社を選定しました。

今回は、昨年度「IT経営実践認定企業」に選定された会社様の中から、2例をご紹介します。

出典：経済産業省ホームページ

『中小企業IT経営力大賞2009』 <http://www.itouentai.jp/award/index.html>

『IT経営成功事例集』 <http://www.itouentai.jp/case/index.html>

市販ソフトと自社製ツールで高効率営業

・弥生販売 + マイソフト Access + 弥生会計で実現

～千葉県・卸売業 従業員数6名～

化粧品や健康食品を卸しているこちらの会社様では、お客様である宅配牛乳販売店からの、「魅力ある商品の提供」「有効な販売活動方法の提案」といった要望に応えるために、受発注業務をシステム化しました。

単に受発注業務のシステム化だけですと、受発注のミスなどを少なくするといった、社内業務の効率化で終わってしまいがちです。

そこで、販売管理システムから取得できるデータを、自社開発した分析ツール(Access)に読み込ませ、多彩な売上分析を行うことを計画しました。

また、会計ソフトの導入で、月末月初の業務負担の平準化に成功。残業時間も削減できました。もちろん、より正確な月次決算によって、会社として、適切な先読み行動が取れるようになりました。

お客様に対しては、効率的な訪問営業活動と、販売店ごとの売上・粗利管理、さらには“先読み提案”(3か月先までの販売活動方法の提案)が実現されています。

情報の共有・蓄積で意思決定のスピードアップ

・自社開発データベース + CAD + スキャナ等で実現

～大阪府・金型設計製造業 従業員数26名～

こちらの会社様では、部品メーカーからのコストダウン要求や原材料の高騰といった悪条件に対応すべく、経営のスピードアップと優先順位付けが急務となったことが、IT経営を推し進めるきっかけでした。

目的は、IT活用によって「時間」という経営資源を創り出すこと。そのために、9万3千点を超える金型の中から、任意の一点を、わずか1秒で検索できる「データベース」を自社構築しました。

データベースには、金型ごと・得意先ごとの粗利益も収められており、社員が検索で使用する度に、製品のコストを意識できるようになりました。

また、文書ファイルや画像データなど、社内のあらゆる情報資源をデジタル化して、一括管理しました。欲しい情報がすぐに取り出せるということは、現場のスピードアップだけでなく、経営判断のスピードアップにもつながっています。

編集後記 今号は、お伝えしたいことがたくさんあって、挿し絵を入れるスペースが無くなってしまいました。改めて、シンプルに伝えることの難しさを痛感しています。大賞を受賞された3社の事例は大規模なものです。しかし、IT経営へのシフト方法は、大規模開発が全てではないと思うのです。今回、本文中で紹介しました事例は、既存のものに工夫を加えることで実現させたものです。もちろん、私たちのお客様の中にも、類似の事例をお持ちの方がいらっしゃいます。(郡司)